

トビウオ二艘曳き採捕試験

金城 武光

1. 目的

本試験は、平成9年度にサヨリ2艘曳き網漁業導入試験で使用された網を利用し、サヨリと同様表層付近を遊泳するトビウオを対象にしたものである。多人数を必要としたトビロープ曳き漁業が衰退して以来、近海のトビウオ資源は、1人か2人で行なう小規模のトビロープ曳き及びトビウオ刺網で若干揚がるのみで、ほとんど漁獲されていない。加工利用も勸案しながら、漁獲の有無を検討する。

2. 材料及び方法

平成9年度使用されたサヨリ2艘曳網を使用し、1回目は、袋網にリンクを取り付け、入網したトビウオが逆走して逃げるのを防ぐため、返し網を取り付けた。

2回目は、1回目の試験で袋前底網が破損したため、ポリ網200 d 15 / 10 100掛の網地を破損部分と交換した。

2隻での曳航は、船間約100~150メートル、毎時約3.5ノットで30~55分間曳航した。漁場は、糸満沖のルカン礁東海域である。なお、操業は1回目は9月、2回目は4月であった。

3. 結果

漁獲物は、1回目はツマリトビウオ（プーカー）34尾、アヤトビ1尾で、2回目はツマリトビウオ7尾、ヒトズラハリセンボン5尾であった。

不漁の要因として次のことが考えられる。1回目は、袋前底網の破損による逸散が考えられるが、曳航中のどの時点で破損したかは不明である。2回目は、海況等（特に潮流）の要因に

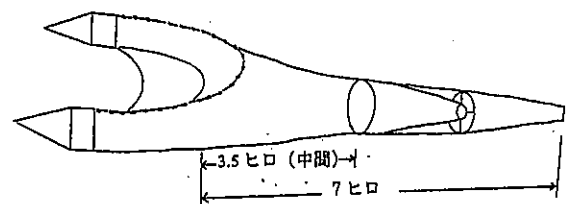
より、トビウオが他の海域へ移動したものと考えられる。この付近の海域は、北向きの潮流時に豊漁する傾向にあり、当日は逆の南寄り潮流が見られた。

4. 今後の課題

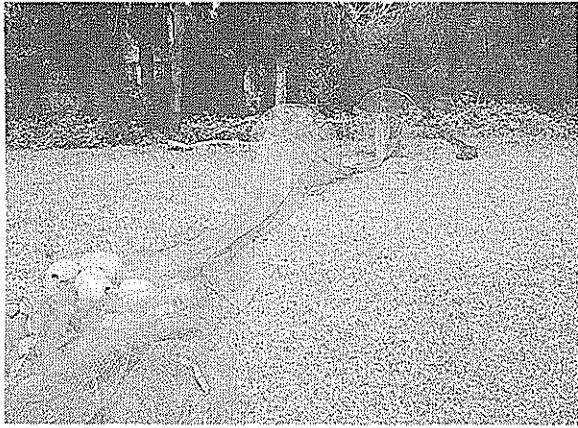
この網は、表層を遊泳するサヨリを対象とするサヨリ浮きびき網であるので、袋網の下側が上側に比べて長いのが特徴である。

他県ではサヨリ浮きびき網と、トビウオ浮きびき網は同様の網を使用しているところもある。トビウオを対象とする場合は袋網の中間にかえし網をつけており、今回のトビウオ採捕試験もかえし網をつけて行ったが、結果は良くなかった。

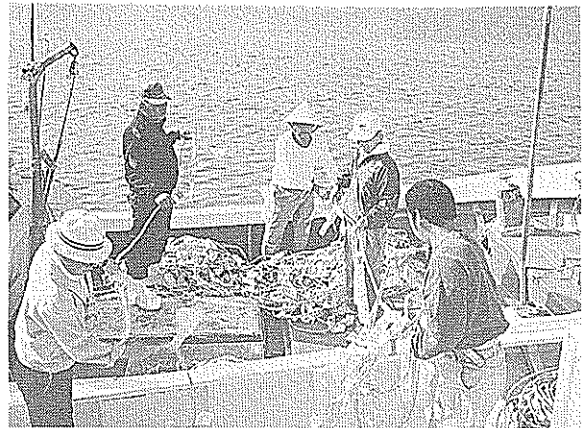
今後は、県内市場で高値で取り扱われているホシザヨリ（カタギラー）の増集時期等を把握し、サヨリとトビウオを併用した採捕試験を実施する必要がある。



かえし網を付けた袋網



袋網のリング



おとしロープから積み込み



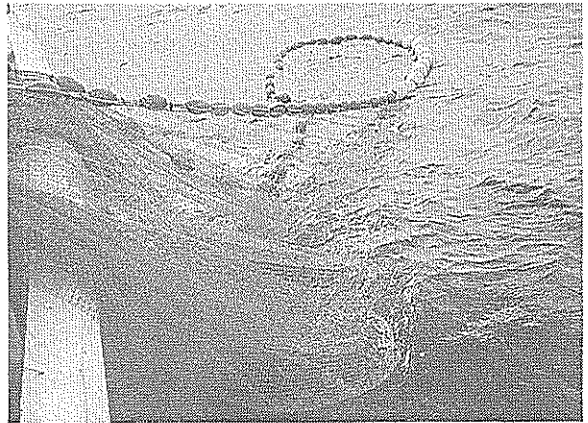
リングと返し網



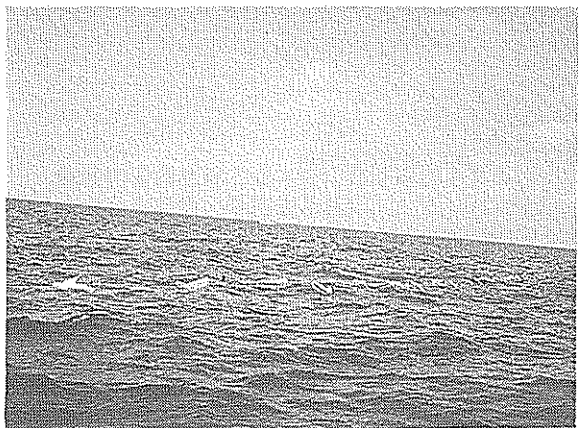
投 網



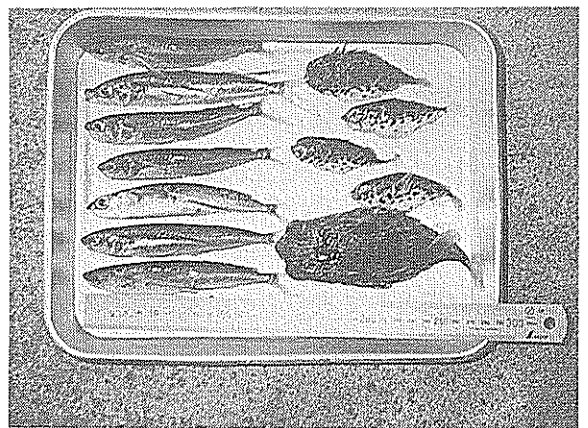
曳航開始前



揚 網



曳 航 中



漁 獲 物